

キラリ★話題の「ひと」



あさお はるみ
浅生 晴美さん
(朝日町)

○プロフィール
SANOまなびすとくらぶ代表

世代を超えて楽しく学ぶ

ま なびすとくらぶのことを知ったのは、私が博物館のセミナーに参加したときです。

この会は、楽習と称して自分たちの興味関心のあるものを楽しく学び、探求する生涯楽習団体です。

発足のきっかけは、生涯楽習フォーラム全国大会が開かれたことに由来します。市の生涯学習課の呼び掛けで、大会のボランティアやセミナー参加者により、29年前に創設されました。私も話を聞き、長い歴史を感じました。公民館や市などが行う講座と異なり、参加者主体で、関心のあるものを、時には自分たちが講師になり、自主的に運営するそうです。そして基本は楽しく学ぶことだそうです。

これまでの活動は、生涯楽習フォーラムの企画・運営や、第一酒造を会場にした「蔵シックコンサート」、メンバーの自主制作した作品展などです。会員の得意分野について共に楽しく学ぶために「唐沢山城をはじめとする歴史散策」、「高性能望遠鏡を使っての星の観察会」、「ぐるり1周鉄道旅」、

「藍染め体験（閑馬の紺色）」などについて、会員が講師となった

り、企画をしたりしています。こうした企画は会員の話し合いで決め、時にはチラシを作り、一般の参加を呼び掛けることもあるそうです。

私も唐沢山の出城の「大網城を歩く会」に参加し、多くのことを楽しく学びました。このように、いろいろなことを、自分たち中心で学べることは、生涯学習（楽習）という点でもありがたいことだと私は感じました。

(市民記者 福田満)



▲藍染め体験の様子

市長からの

メッセージ

新年度となり、入学、入社など新たなスタートを迎えた皆さん誠におめでとうございます。新しい環境に早く慣れ、夢や希望に向かって進んでください。さて、先月の市議会において、令和4年度の一般会計ほか、各特別会計、公営企業会計予算を承認いただきました。一般会計につきましては予算額507億1千万円で、合併後最大の予算規模となっております。2つの重点政策を最優先事項といたしました。まず一つには、新型コロナウイルス感染症対策です。令和3年度に引き続き、感染予防対策、経済対策、社会福祉の面からのセーフティネット対策など、きめ細やかな対応を行ってまいります。もう一つが、令和元年東日本台風被害からの復旧・復興および防災・減災、国土強靱化の取り組みです。復旧事業については、3月時点で復旧完了率が98.2%となり、令和4年度は道路橋りょう災害復旧事業のみとなります。今後は、防災・減災、国土強靱化の取り組みについてもしっかりと進めていきます。その他では、人生100年時代を見据え、シニア世代の方々が地域でいきいきと活躍できる環境を整えるため、「(仮称)シニア地域デビュー条例」の制定を進めます。また「こどもの街宣言」にふさわしい子育て環境を整備するため、第2子以降の保育料無償化および高校生までの医療費無料化を実施し、子育てにおける経済的な負担の軽減を図るとともに、職業につながる国家資格試験などの受験料助成(★)などを実施し、本市の将来を担う子どもたちのチャレンジを後押しします。これらの予算のもと、令和4年度は、20年、30年先を見据えた佐野市の仕組みづくりを進める、本格的なスタートの年にしていきたいと思っております。



★の詳細はこちら

金子 裕

今回の表紙 「第1回唐沢山城跡ヒルクライム開催」 令和4年3月13日撮影

自転車で山道を走り抜けるヒルクライムが、唐沢山を会場に開催されました。鍛え抜かれた参加者たちによるレースは、迫力満点です。





磯山公園の新名所

参

拝前に手や口を清める^{ちようすや}手水舎にお花を浮かべたものが^{はなちようす}花手水です。出流原町にある磯山公園の弁天池の隣に鎮座する涌釜^{わつかま}神社の、名水百選の水を使った花手水は、近くに住む塩島則子さんと尾花和美さんがボランティアで昨年6月から管理しています。花を取り換えるたび参拝者がSNSで発信してくれるとのことで、特に、出流原小からいただいた「マリーゴールド(9月)」、近所の人から持ってきてくれた「バナナの花(10月)」、「綿の花、^{おにゆず}鬼柚子(11月)」などが人気だったそうです。塩島さんは「皆さんに見てもらおうね」と思いを込めながら自宅に咲く花の枝を折るとのことです。その思いが届き、たくさんの人の目に触れて楽しませてくれています。また、尾花さんは「花手水の顔は毎日違います。きれいと言ってもらえるのが一番嬉しいです」と目を細めていました。また、2人は「皆さんに助けてもらいながらこれからも続けていきたい」と感謝の気持ちでいっぱいでした。涌釜神社周辺の桜は弁天池の水が冷たいせいもあり咲き始めが遅いそうです。花手水が初めて迎える桜の季節、桜の花と一緒に映える景色が楽しみです。

(市民記者 中里聖子)



▲花手水の様子
(左: 尾花さん、右: 塩島さん)

第6回さのまるの日イベントが開催されました!

2

月26日(土)に、第6回さのまるの日イベントが開催されました。このイベントは、さのまるの誕生日である2月25日に合わせて毎年実施されているもので、今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続きオンラインでの開催となりました。イベントの中では、さのまる10周年記念イベントの紹介や記念切手・乗車券の紹介なども行われました。また、昨年7~8月にかけて行われた「さのまる衣装デザインコンテスト」の最優秀賞の発表も行われ、新デザインである「さのまると、さのさんぼ」をお披露目しました。さらに、さのまるとゆかりのある全国各地のキャラもオンラインで参加し、さのまるの誕生日を祝いました。イベントの最後には、さのまるに誕生日ケーキが準備され、今回の司会であり佐野ブランド応援団長でもあるテルさんから、ハッピーバースデーの歌を弾き語りしてもらおうという場面もありました。



▲イベントの様子

佐野
ばんてい

「ぶち壊すの方言「ポッコス」は
いろいろな意味を持つ」

古くなって物が使われなくなると、その物の名は消えてしまします。かつて農家には、畑にあるかたい土のかたまりを「壊す」仕事がありました。この仕事および土のかたまりを壊す農具を「ツブテッコシ」といいました。今ではその名を知る人はいないほどに古い方言となってしまいました。石のようにかたい土くれをツブテといひ、こわし(壊)の変化形(略語)をコシといひます。ところで、「壊す」にブツやポツがついた方言はいろいろありますが、それにはどんなものがあるでしょうか。それらの方言の意味や語形について述べてみましょう。

「壊す」の意味を強めるために、接頭語をつけて、「ぶち壊す」といいます。方言も意味を強めるために接頭語をつけてブッコスといいますが、語形にはいろいろあってポッコス以外にも、ポッコス・ポッカスなどもあります。

「スピードの出しすぎで、ジデンシャ(自転車)を石垣にぶつけて、ポッコシチャッター」

明治生まれの女性は、着物を解いて洗い張りをしました。そのときの「解く」を、方言ではポッコス(壊す)といひました。というのは、洗濯をする前に縫った着物を解きほぐしますが、その仕事は着物をばらばらにすることであり、「壊す」行為に似ているからです。

高額の貨幣を小額の貨幣にかえることを「両替する」「ぐずす」といいます。方言ではポッコス、ポッコス、ポッカスといひます。いずれも元は物をくだいて小さくする意です。

「この一万円を千円札にポッコシてっから、缶ジュースや缶コーヒーなどを買って来っから」

(市民記者 森下喜一)

